



プロバスだよ

2009年 10月 8日発行

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年 10月 18日

第167号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

2009～10年度テーマ **広げよう！ プロバスクラブの楽しみの『環』**

第 167 回例会

日時：平成 21 年 9 月 10 日 (木) 12:30～14:30

場所：八王子エルシィ

出席者：55名、出席率86%

(会員総数67名、内休会3名)

1. 宮城例会委員長の司会で定時に開会



2. 会食

3. 下山会長挨拶

皆さんこんにちは。天高くさわやかな今朝でした。時の過ぎるのは早いようで、もうすっかり秋の様子です。今日のような日は、アウトドアライフに丁度よい気候で、スポーツや旅行などをする人にはそわそわするシーズンです。私などへぼゴルファーでも、プロバスクラブのゴルフコンペがすぐですが、待ち遠しい感じです。この夏の一ヶ月の間にも世の中は、どんどん変化、動いておりました。選挙そして政権交代、新型インフルエンザの流行、雇用情勢に見る景気等々、激動しています。社会は情報や物、そして人の移動のスピードが早くなって、歴史の回転は幾何級数的に速くなっていくのだろうかと思ってしまう。少しは落ち着いて欲しいと思います。

プロバスクラブが横浜港南台に誕生したそうです。このところプロバスクラブの誕生のニュースが増えているように感じ、うれしく思っています。でも、私たち東京八王子プロバスクラブは惑わされず、豊かなクラブライフを求めて、少しずつでも力を出し合って着実に活動してまいりたいと思います。事実、各委員会、担当理事それぞれに活動を順調に進めてきてい

ます。

今日は幹事、各委員長から報告やお願いがいくつかありますので、よろしくお聞きください。なかでも、Happy coin制度を試みてみたいと言う件があります。ご静聴の上ご協力下さい。岩島さんの卓話もあり、もり沢山ですので早速始めることに致します。

4. 新入会員紹介



推薦者：杉山友一会員

新入会員：宮田 正実 (みやた まさみ) 氏

株式会社「伊勢丹」外商企画・システム物流の責任者。職種はシステムエンジニア&プログラマー、伊勢丹Webのディレクターを歴任。現役時代から青少年、学校、地域社会への多彩な奉仕活動の実践者。

趣味：バイク、登山、ウォーキング、囲碁
DIY (Do It Yourself:自分で作ろう)、旅行等。

宮田正実会員挨拶 (会員No.115 情報委員会)

只今、ご紹介にあずかりました宮田正実です。満60歳になって、この会に入会させて頂き、平均年齢を0.2歳下げたということです。会社の中ではリタイア組で一番上の年齢ですが、この会では若僧ということです。様々な経歴のお持ちの諸先輩に交じりながらどれだけやれるのか心配ですが、これまで培った知識をこの会に役立てればと入会させて頂きました。ひとつ宜しくお願い致します。



下山会長から宮田会員へバッチ贈呈

5. 幹事報告（荒幹事）

(1) 青森県六ヶ所プロバス会長 土田浩氏
8月28日すい臓がんのためご逝去（77歳）。
ご冥福をお祈りいたします。昨年7月11日に当PC会員が交流訪問の時には、六ヶ所村開発のお話を熱心にして頂きました。

(2) 横浜「港南台プロバスクラブ・まろにえ」
9月7日設立、全日本プロバス協議会副会長立川富美代会員に対応をお願いしました。

尚、港南台PCは当PCマークの使用を要望され、これで壱岐PCと横須賀PCを合わせて採用が3件目です。プロバスソングは都城中央PCに1件採用されています。

(3) 同好会報告は、卓話時間との時間調整を計って行います。

(4) 「ハッピーコイン申告」制度の試行。

会員本人や会員の身近な人間関係の中で起きたハッピーな出来事を、会員の皆様にお裾分けするとともに、ワンコインを献金いただき、同好会の奉仕活動に役立たせる目的の制度です。例会委員会が担当し、10月の例会から試行します。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 高瀬副委員長

本日の出席は55名、出席率は86%です。
出席の際には、必ず受付を済ませて下さい。

(2) 情報委員会 特にありません。

(3) 会員委員会 浅川副委員長

1名の入会で現在会員総数67名、休会3名。

平原会員は療養中のため前期休会。

(4) 研修委員会 佐々木委員長

《野外研修》

—明治の代表建築と科学技術の仕組を観る—

訪問先：旧岩崎邸庭園 日本銀行 科学技術館
日時：11月12日（木）7:45～17:30

《同好会のアンケート調査》

調査結果を集計し、新たな同好会の立ち上げの資料とさせていただきます。

(5) 地域奉仕委員会 堀口委員長

今年度の生涯学習サロンのテーマと話し手の方々（含特別講話と外部講師）を決定。
野外サロン、さよならパーティについては精査中で、全体のスケジュールを合わせて

早急に報告します。

(6) 交流担当 山崎理事

全日本プロバス協議会理事との交流会
日時：11月16日（月）12:30～15:00
場所：京王プラザホテル八王子

（出し物として、車人形）

“ウエルカムパーティ”（前日宿泊者が対象）

日時：11月15日（日）18:00～20:00
場所：京王プラザホテル八王子
交流会には多くの方の参加をお願いします。

7. 同好会報告

(1) 写真同好会 特になし。

(2) 囲碁同好会（矢崎安弘会員）

囲碁大会 10月30日 於藤野陣谷温泉一泊。

(3) お茶の会（阿部治子会員）

八王子市煎茶連盟秋季茶会“茶会を楽しむ”
期日：10月25日（日）10時開始

場所：クリエイトホール 会費：1,000円
皆様の出席をお待ちしております。

(4) ゴルフ同好会（小林時雄会員）

9月25日、相武カントリークラブにて開催

(5) 歴史の会（荒 正勝会員）

講演会「散策では見えない鎌倉の史跡案内」
日時：10月19日（月）14:00～16:30

場所：八王子労政会館 第5会議室

講師：荒 正勝会員

会費：講演会と懇親会で5,000円

講演会のみの方は 500円

代表幹事交代：10月から土井俊雄会員です。

8. その他

久野久夫会員よりのご案内

ロビーコンサート“雅楽の夕べ”

日時：9月25日（金）18:30～19:30

場所：八王子消化器病院1階ロビー

9. 卓話 健康雑感

岩島 寛



はじめに

私は健康に関して大変関心が強く、いろいろの書物を読み、また考えるようになりました。そんな訳で、今日はその一端をお話させていただきます。

1. 動物であることを忘れかけている現代人

実は人間も動物であって、何万年あるいは何億年をかけて作り上げて来た動物としての遺伝子にそぐわない方向へと進み始めているのではないかと思います。何故なら私たち現代人豊かな生活が出来るようになってから百年もたらず、遺伝子はその急激な生活環境の変化にそう簡単には追従できないからです。人類歴史は、ひもじさとの戦いの歴史です。

遺伝もそのひもじさに耐えられるように出来ていのだと思うのです。

私たちは物質的な豊かさを享受すればするほど、このことを心の片隅において、生活してゆかなければならないのではと思うのです。

2・人間は心臓を3つ持っている

心臓はポンプであります。この心臓に協力して血液の循環を良くしているポンプが他に2つあるのです。それは、足と歯です。

足は歩くことによって足の筋肉の中に埋め込まれている無数の血管は圧縮、弛緩を繰り返して、それによって血管の中の血液は心臓の方向へ動するのです。足の先から重力に逆らって心へ血液が戻るには、この足のポンプが不可欠なのです。

歯は噛むことによって脳への血液の循環を促進しているのです。噛むということは咀嚼と同時に唾液を出して消化を助けるという働きだけではなく、脳への血液循環を促し、かつ、脳を刺激して活性化させるという効果もあるので歩くと噛むことの大切さを忘れてかけている私たち現代人は、自分たちが動物であるということを意識して、与えられた肉体も心も100%働せることが必要なのではないでしょうか。

3・植物に抗酸化物質を依存している人間

癌は細胞の酸化から始まると言われています。この酸化を抑えてくれる抗酸化物質：ビタミンC、A、E など、これらを動物は合成すること出来ず、植物に依存しているのです。太陽光に含まれる紫外線は酸化力が強く、有害な活性酸素を誘発しやすく、生物にとって大敵です。動物は日陰に隠れて難を逃れることが出来る、植物はそれが出来ません。そこで植物は十億年かけて紫外線に耐えられる体を作っていたのです。

私たち全ての動物は抗酸化物質の摂取という面から植物の多大の恩恵を受けているのです。

4．廃用症候群について

廃用症候群とは、本来使うべき身体の機能を使わないことによって起こる病気のことを言うのです。

昔の人は、廊下や板の間の雑巾がけ、たらいで洗濯、布団の上げ下げなど、腕、指先、身体の屈伸、また、下駄で歩くことも脚の筋肉をつけることになりました。掃除機や洗濯機、ベッド、洋式トイレ、車など文明社会になって、人間の機能は衰えをきたすばかりです。時代を遡る生活は出来ませんが、普段、身近で身体を使うことを意識してやっていくことが必要のようです。自分では何も出来なく(寝

たきりに)なることを防ぐためであります。

10．プロバスソング斉唱

11．閉会挨拶 杉山副会長

今日の例会冒頭、下山会長は挨拶で、「今は大きな時代の転換期」と言われましたが、本当に世相が荒れています。こうした時代は、とくにお金の価値、経済の価値だけが声高に叫ばれますが、健全な市民社会にとって大事なことは、経済の価値と同じ分量だけ人間の「善意の価値」を流通させなければならないということです。この点、プロバスクラブはまさしく「善意の価値」の発信元の一つであります。プロビアンは「善意の価値」の配達人、それがプロバスクラブの存在意義だと確信している今日この頃です。本日はお疲れ様でした。

投稿

私と八王子

矢崎 安弘

私は本当の八王子っ子ではなく、生まれは都心の蒲田です。八王子の最初の記憶は、当時3～4歳だと思いますが、八王子へ引っ越してきた時、駅を降りて、お袋の手に引かれて新居に向かって角を曲がったら、白くて長い塀が続いていたことです。今にして思うと、子安4丁目の興林寺の塀でした。新居は刑務所の直ぐ下の辺りの子安3丁目でした。八王子駅には未だ南口が無い時代です。

私の少年時代はここに始まり、旧制中学1年の13歳の時、昭和20年8月2日未明の空襲で家が焼かれ八王子を離れるまで、約10年間続きました。懐かしい当時を振り返ってみたいと思います。

当時の八王子は、直ぐそばに豊かな田園風景が広がり、その中で楽しく遊びまわりました。夏には、御陵線の線路をまたぎ、山を越えた片倉には、川をせき止めて作ったボート場があり、またとない天然のプールとなり、よく泳いだものです。今思うと湯殿川です。そこには、小さな動物園があり、孔雀が羽を広げるまで、じっと待っていたことを思い出します。帰りにのどが渇くと桑畑で桑の実をほおぼり、口の中、唇が紫になり、インクを飲んだようになりました。

小学校は、最初、1年生で入学したのは、確か第3小学校。担任は間山先生。その後、多分3年生のときだと思いますが第3小学校と第4小学校の一部の生徒を集めて、第6国民学校が誕生し、そちらに移りました。これは現在の第6小学校です。通学路は、家を出て住宅地区を過ぎると、なだらかな斜面の草地。それを過ぎ

ると、崖の下に湧水。いま訪ねてみるとやはり、湧水があり六本杉公園となっていました。

鮮明に記憶に残っているのは、なんとと言っても、八王子の空襲です。昭和 20 年 8 月 1 日の夜に、まず警戒警報がなりました。外に出てみると夜空の一角から続けざまに、ドーン、ドーンと腹に響く音が聞こえてきました。昼間、米軍の飛行機から、水戸と八王子を攻撃するという警告書をばら撒いていたので、水戸は艦砲射撃を受けていたようです。そのうち、警戒警報が解除になり、私たちも布団にもぐりこみ、寝てしまいました。突如、母親に起こされ、空襲だから早く隣組の防空壕に逃げるよう言われました。外へ出ると、眼下の八王子中心部のほうが真っ赤な炎に包まれて燃えています。直ぐ近くにも焼夷弾が落ち炎を上げています。自分の家の防空壕のほかに、100 メートルほど先の土手に隣組の防空壕があり、そこに向かって幼い弟の手を取り駆け出しました。市内方面を見ると、燃え上がる火で空が真っ赤に染まり、B29 が映し出され、焼夷弾が、ヤギが糞をしているように、ポロポロ、ポロポロと落ちていくのが見えました。恐怖のため体が震え、奥歯がガチガチと鳴り、防空壕にたどり着いても、どうしても震えが止まりませんでした。奥歯にいくら力を入れてもガチガチが止められない経験は、私の人生の中で、これ 1 回です。

夜が明けて防空壕から出てみると、火は我が隣組を焼き尽くしたところで止まっていました。焼け跡に立ってみると、こんなに狭いところに何軒もの家があったのか、猫道ならぬ、子供専用の抜け道で遊んでいた広い場所ではなくなっていました。その後、火を消し、焼け残りの柱や焼け焦げたトタン屋根を拾い集め、掘立小屋を作り雨露をしのぎました。食べるほうは、当時の隣組の団結は強固で、全員で炊き出しをして、おにぎりを食べました。そういえば、程近いところに大きな精麦所があり、近所では最初に焼夷弾が落ちたところですが、大人たちは、いち早く米を拾いに出かけ、袋ごと担いで来ました。我々子供も一緒に出かけ、焼けた米袋をめくり、下のほうから無傷の米袋を引っ張り出しました。この米で炊き出しをしたのです。お風呂は、どこからか焼けたドラム缶を拾ってきて、焼け野原の真只中で入りました。また、御殿峠のほうにあった焼けた倉庫に、缶詰がある

との情報が伝わり、私たち子供も駆けつけ、焼けて膨らんだ缶詰を次から次へとはがし、下の方から焼けてなく、平らになっている缶詰を必死で拾い集めました。このような日々を送っていたところ、思い返せば 8 月 6 日に広島に原爆が投下されたのです。当時は「新型爆弾」とよばれていました。何の抵抗も受けずに飛来した B29 から、宣伝ビラが投下され、それを読んで知りました。

我が家はその直後、山梨の石和の親戚に疎開し、8 月 15 日の天皇の玉音放送を、そこで聞きました。その後、都内に舞い戻り、阿佐ヶ谷、小金井、立川、千葉と住居を変え、昭和 50 年 3 月に、心のふるさとへの帰巢本能が働き、八王子に舞い戻った次第です。

8 月 15 日の終戦記念日を迎えるにあたり、空襲と当時の懐かしい思い出として、我が人生の履歴書の一端を書き綴って見ました。

訃報

当クラブ会員 平原俊彦様



9 月 13 日 9 時 15 分ご逝去
享年 76 歳

ご冥福をお祈り申し上げます。
告別式：9 月 16 日 金剛院

略歴：昭和 31 年日本コロムビア（株）入社、

以来 38 年間同社在籍、その間洋楽部長、文芸部長、CD 部長、米国 CD 工場建設本部長、国際本部長などを歴任、洋楽の紹介、音楽制作、CD などニューメディアの開発、国際関係の強化対策に従事する。

編集後記：平原氏のご冥福をお祈りし、先輩のご意志を受け継ぎ、プロバスクラブの発展に貢献したいと思います。 情報委員長



平原パスト会長を悼む

東京八王子プロバスケットクラブ
初代会長 大野聖二

当クラブ五代会長だった平原俊彦さんが9月13日永眠されました。平原さんは当クラブ創立以来、あらゆる行事の中心となって推進して下さいました。第三回生涯学習サロンでは地域奉仕委員長として、方向性の定まっていない生涯学習サロンを充実し、以後の方向性を定めて下さいました。サロンでは最初から毎回音楽をテーマとしてサロン会員の人気講座でした。

プロバスケットクラブ創立5周年には、会長として実行委員長を兼任し、立川副会長と共に、中国、韓国、モンゴル、沖縄地域といった東アジアの伝統芸能を紹介して下さいました。さらに10周年には、再度実行委員長として、自衛隊東部方面音楽隊による演奏会を市民会館で実施し、ほぼ満員の市民を集めプロバスケットクラブの成果を上げて下さいました。

平原家は、一族に弁護士、計理士等、八王子地域で知的分野において活躍されております。平原氏も当時二期校の東大と言われた横浜国立大学に学び、その頃傾注したショパンにあこがれたのか、日本コロムビアに入社し、理事として国際本部長等を歴任、音楽文化に貢献しました。

私にとってはプロバスケットクラブ以降のおつきあいでしたが、音楽だけでなく文学とくに源氏物語などの古典を好まれ、奥様のお話によると、お部屋が音楽のみでなく求められた本で埋まっていたらっしゃる読書家でした。まさに八王子にあってあらゆる面で造詣の深い文化人であったと思います。

数年前から中央図書館で開かれている千人塾の主力メンバーとなり、「桑都日記」の講読会に参加されておりました。

図書館の帰りには、よくお立ち寄りいただきました。今年の春、お立ち寄りの際に八王子の地名研究等により読売新聞社から表彰

されたと、伺いました。

八王子学会にもご参加いただき、研究会の進行を担当され、文字どおり生涯を勉学につくされた方と思います。

「八王子いちょう祭り」でも音楽のご経歴を頼りに、音楽ステージ関係の責任者として、副会長をお願いしておりました。

イベントには様々な人が集まり熱意のあまり口論になりがちですが、平原さんは穏やかに対処し、怒った表情は一度も見たことはありません。

昨年、八王子市郷土資料館から郷土の産んだ女流俳人の三世松原庵榎本星布の句集が出版され、それが、女流俳人として加賀の千代女を上回るものと評価されました。早速、古典文学や禅に深い見識を持っておられる平原さんは、星布の俳句の原点をお調べになり、その纏めた資料を頂きました。本来、松原庵の八世太玉は私の祖父であり、九世太虚は父であり、本来、私が調べるべきことを、平原さんからご指導を頂いてしまいました。

ここ数年、平原さんは、肝臓を病まれ、時々入院生活を送り、20回近く手術をされておりました。それでも元気に私の事務所に、たびたび研究成果をお持ちになりました。八月末電話を頂いたのに、雑用に追われて、お目にかかれず、悔やまれてなりません。

ここに、平原パスト会長のご功績に感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。